

## 【介護施設向け排泄感知システム製品】

### 専用パッド

- 一般のパッドと同じ使用感



### 受信機

- 排尿量に応じてライトの色が変化



### 発信機

- 軽量小型・防水

3cm x 3.3cm  
重さ10g 厚さ8mm



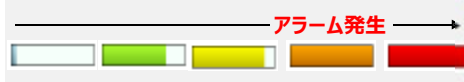
### ソフトウェア

- モニターで一括管理・記録。メールでお知らせ。

#### おむつインジケータの表示

正常時（乾いている）

反応時（濡れているレベルで変化）



## 第126回 かわさき起業家オーディション 「かわさき起業家賞」受賞

# 介護施設向け排泄感知システム



三和株式会社

ヘルスケア&バイオテック  
事業部長  
古尾谷 将之

私たちは、2016年の設立以来、電子機器部品の受託生産を中心に展開してきた企業です。創業メンバーは、大手メーカーで携帯電話の部品製造販売を担ってきた4人。長年の経験からものづくりへかける情熱は強く、「自分たちにしかできない製品をつくりたい」と、3年前から自社製品の開発にチャレンジしています。

その当時、私たちがテーマにしていたのは「核家族」。共働き世帯が当たり前になり、家庭の育児や家事の負担が増え続けていることが社会問題になっていました。「忙しいパパ・ママの助けになるような商品をつくれないうだろうか」。そう考えた私たちは、赤ちゃんの排泄をリアルタイムでスマートフォンに通知する「スマートシッター」を開発。それを皮切りに、医師と協働で開発した夜尿症の改善トレーニング商品や、今回受賞となった介護施設向け排泄感知システムなど、世の中に役立つさまざまな商品を「シェリーブ」シリーズとして世の中に送り出してきました。

当社の理念は「人の一生に寄り添える商品をつくりたい」ということ。赤ちゃんからシニア世代まで、一生のうち何らかの形で私たちの技術が助けになれるような、そんな製品を開発していきたいと思っています。

## ■受賞したビジネスに至った経緯

子育て世代をサポートするために開発した赤ちゃんの排泄お知らせセンサー「スマートシッター」は、いくつかのテレビ番組で紹介していただき、視聴者の方から多くの反響がありました。そのときは「育児中のパパ・ママからのお問い合わせがほとんどだろう」と考えていましたが、実際は介護に携わる方からの要望も、多数送られてきたのです。「赤ちゃんだけではなく介護用のセンサーも開発してくれませんか?」、「今の介護現場は疲弊しています。これがあれば、現場の介護スタッフがだいぶ楽になります」など。予想外の反応に驚いた私たちは、介護現場のリサーチを始めることにしました。

調べてみると、平成31年度には要介護2以上の人口が約340万人、1万5000以上の有料老人ホームがあり、年々増え続けているということが分かりました。そこから、これだけの大きなマーケットで切実なニーズがあるのなら、介護用のスマートシッターの開発にも挑戦してみよう、ということになったのです。

当初は、赤ちゃん用のセンサーを改良する形でできるだろうと考えていました。しかし介護業界について詳しく調べていくにつれ、そう簡単にはいかないことが分かってきます。そのため、ほぼ一から開発をやりなおし、試行錯誤を重ねていくことになりました。「介護施設向け排泄感知システム」の開発には、約2年の期間がかかりました。

## ■サービスの特徴

今回受賞した介護施設向け排泄感知システムは、自社ブランド「シェリーブ」シリーズとして展開しています。介護施設の利用者さんに専用の尿取りパッドを使用してもらって、排尿をセンサーが感知し、受信機のライトが点灯します。ライトの色（乾いているときは白、要交換時は赤）によって排尿量も段階的に確認できるので、最適なタイミングでのおむつ交換が可能です。交換の空振りなど、無駄な業務を防ぐことができますし、入居者さんの排泄傾向や体調の変化をいち早く知ることができるので、忙しい介護現場の負担を軽減することができます。

このシステムの強みは、「排尿量を計れるのにリーズナブルなこと」です。競合となる商品はいくつかありますが、排尿の有無しか判断できないものがほとんどです。膀胱内尿量まで計れるものは非常に高額です。しかし、当社が採用している「静電容量センサー方式（グループ会社による特許取得）」は、安価な仕組みで排尿量までしっかり感知できるシステム。専用のパッドは必要になりますが、従来のパッドに比べてもそれほどコストはかからないため、導入しやすいことも魅力です。また、専用パッドは国内大手紙おむつメーカーにてOEM生産しているので安心して利用できます。

ある施設でこのシステムを試験導入していただいた際、入居者さんの介護度が下がったという事例がありました。排泄をしたあとの気持ち悪さに耐えられず、いつも自分からおむつを剥いでしまう入居者さんがいたそうですが、「ライトが点けばすぐにスタッフが取り替えてくれる」ということが分かること、おむつを取らずに待ってくれるようになったそうです。このように、現場でも確かな効果が出ており、高い評価をいただいています。

## ■現状の課題

多くの現場で使っていただき、システムの認知度を上げていきたいと考えています。ですが、介護施設は

とても忙しい場所ですから、飛び込みで来る企業の話をやっくり聞いていただけるような状況ではありません。ある介護施設の方は、「毎日のように新しい商品の売り込みが来る」と嘆いていらっしゃいました。使っていただければ良さを分かっていただけだと思いますが、一朝一夕の関係で入り込める業界ではないため、介護施設とのネットワークづくりには苦心しています。ただ、今回受賞できたことで、川崎市から介護施設をいくつかご紹介していただくことができました。すでに試験導入に向けて動きは始めている施設もありますので、展望は明るいです。

また、現場の介護スタッフからは「現場の負担を減らすため早く使いたい」という声をいただきますが、直接的なコスト削減につながる商品ではないため、経営側としてはなかなか導入に踏み切れない、というケースも少なくありません。しかしながら、最近では「料金に関わらず、より良いサービスを提供してくれる施設に入りたい」と考える方も増えてきています。そうなったときに、施設選びのポイントになってくるのは、サービスの品質です。介護現場の負担を軽減し、細やかなケアを支援する私たちのシステムが必要とされる時代は必ずやってくる。そのときまで根気強く良さを伝え続けていくことが大事だと思っています。

## ■今後の展開

まずは自社ブランド「シェリーブ」シリーズの認知度を上げることが目標です。そのために、介護施設での試験導入を増やすこと、展示会などへの出展を進めていきます。施設も経営者によっていろいろな考え方があり、新しいものを取り入れることへ不安を持つ方もいます。ですが、先ほどもお伝えしたように地道に働きかけていくことで手ごたえは変わるだろうと確信しています。例えば、今は当たり前のように普及しているスマートフォンですが、登場した当初は、「ボタンのない携帯電話なんてあり得ない」、「高齢者はとても使えないだろう」と思われていました。でも今ではすっかり浸透し、シニア世代の方も普通に使いこなしています。同じように、私たちの商品も認知度を上げ、良さを知っていただくことで、介護現場のスタンダードにしていきたい。更には、大手介護システムメーカーや紙おむつメーカーにこの技術を提供し、各社のオリジナルブランドとして販売していただきたいと思っています。そして最終目標は、介護現場で使われるおむつに「シェリーブ」の技術が当たり前のように取り入れられている、そういった商品にしていくことを目指しています。

## ■エントリーを検討中の方へ一言

プレゼンテーションでは、「自分のやりたいことをきちんと伝える」ことがとても大事だと思っています。わずかな時間で、商品の仕組みや詳細をすべて説明するのは難しいですが、開発にかけた情熱や、強い気持ちを伝えることはできます。「自分はこういった想いでこの商品をつくりあげたのか」、「このビジネスでどう世の中に貢献していきたいのか」をしっかりと伝えることが、結果につながっていくのではないのでしょうか。

会社名：三和株式会社

住所：〒105-0004

東京都港区新橋2-20-15

新橋駅前ビル1号館808

電話番号：☎03-6228-5382

メール：sherrive@sanwajp-group.com

ホームページ：https://sherrive-official.com/